

調査報告

トロス司教座聖堂から出土した動物遺存体(二) — 二〇一五年度調査の概報 —

キーワード

聖堂 動物遺存体 家畜

松崎哲也

二〇一五年度のトロス司教座聖堂の発掘調査では、昨年度に引き続き、多くの動物遺存体が出土した。出土量は昨年度よりも多く、良好な状態で保存されていた。二〇一五年度は動物遺存体担当の松崎が発掘調査に参加していないことから、分析にあたっては松崎の助言のもと、分類・同定作業をおこなった。そのため、詳細な分析は来年度以降にまとめることとし、本稿では出土した動物遺存体の概要について報告する。なお、全体の発掘調査結果に関しては前号の浦野報告を参照いただきたい。

一. 分析資料

動物遺存体は、北翼廊の第一室と第三室の床面付近から

史苑(第七七卷第一号)

表1 トロス司教座聖堂出土動物遺存体種名表

脊椎動物門 Verterata
硬骨魚綱 Osterchthyes
不明硬骨魚綱 Osterchthyes sp.
鳥綱 Aves
不明鳥綱 Aves spp.
哺乳綱 Mammalia
ウシ <i>Bos taurus</i>
ヒツジ <i>Ovis aries</i>
ヤギ <i>Capra hircus</i>
イノシシ <i>Sus scrofa</i>
ネズミ科 Muridae sp.

多量に出土しており、とくに第三室からの出土が多い。調査時に目視で取り上げたものと、土壌を三ミリメッシュのふるいを用いて選別し、採集したものがある。昨年度は、部位の判明した骨を対象として分析をおこなったが、本年度は松崎が不在であったことから、破片も含めて採集したすべての骨を形態ごとに分類・整理した。また、出土した動物遺存体はできる限り現場で写真を撮影して松崎に送付し、写真から得られた所見をもとに現生動物の骨格標本や骨格図譜、論文等を参考として仮の同定作業をおこなった。

したがって、本報告はあくまで暫定的な分析にとどまり、場合によっては一部同定に誤りが含まれている可能性がある。ただし一方で、出土した動物遺存体の分析を通して、今後トロス司教座聖堂の評価につながるような知見が得られる期待があること、また、あまり動物遺存体の分析が進んでいない時期・地域において、継続的に調査成果を報告することに然るべき意義が認められることに鑑み、概報とどうかたちでまとめることとした。動物種が限られる上、明白なものも多いため、今後詳細な分析をおこなうことによつて結果が大きく変わることはないと思われるが、このような留保がつくことを予めご了承ください。

分析対象とした動物遺存体は、北翼廊全体に由来するも

のではなく、第一室と第三室から出土したのみである。第二室からのもの(その数は十数点にとどまる)を分析対象に入れなかった理由は、まず第一に、二〇一三年、床面モザイク発掘のため第二室の東半部の堆積土を取り除いた際、動物遺存体が出土することも、またそれゆえ動物遺存体を調査対象とすることも想定しておらず、いくつか目視で見出された動物遺存体を土石とともに捨ててしまったこと、第二に、その際、モザイク面保護のために残された第二室西半部の堆積土の層が薄く(三〜五cm)、また二〇一五年まで二年間雨晒しで手を付けず放置してしまっていたため、二〇一五年度の発掘で見つかったわずかな動物遺存体は分析対象とすべきサンプルになりがたいと判断したこと、である。なお、第一室と第三室は、堆積土を一〇cm以上残していたが、二〇一四年度に動物遺存体を調査対象に加えることを決定した以前、とりわけ北翼廊を発掘した二〇一二年度には動物遺存体は採集されていないことも予めお断りしておきたい。

二. 分析結果

本年度のトロス司教座聖堂の発掘調査により出土した動物遺存体の総破片点数は一〇三二点で、部位の判明したも

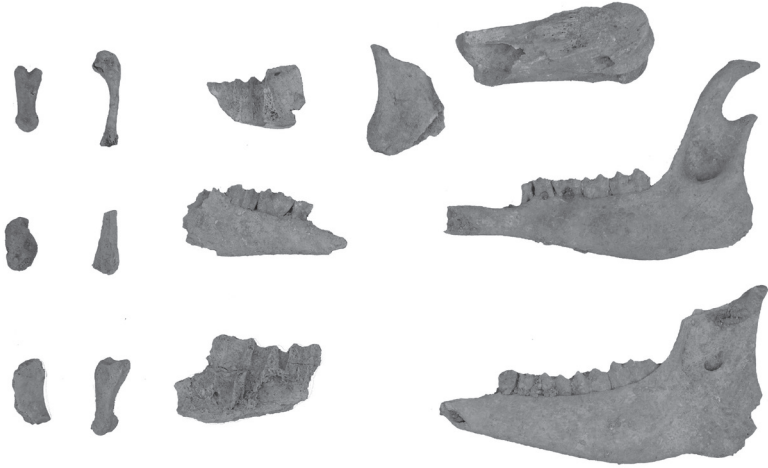


図1 第三室出土動物遺存体(ヒツジ/ヤギ下顎骨ほか)



図2 第三室出土動物遺存体(ヒツジ/ヤギ下顎骨・遊離歯ほか)



図3 第三室出土動物遺存体(ヒツジ/ヤギ中手骨・中足骨ほか)



図4 第三室出土動物遺存体(ウシ橈骨、ヒツジ/ヤギ中手骨・中足骨ほか)

のは四九二点である。哺乳類、鳥類、魚類が含まれており、内訳は哺乳類が四八〇点で大部分を占め、鳥類、魚類はそれぞれ六点左右であった(表1)。

哺乳類は、部位の判明した四八〇点のうち、三四六点を同定した。最も多かったのはヒツジ／ヤギの三二四点であり、全体の九〇%以上を占める結果となった。出土部位は頭蓋骨、下顎骨、遊離歯、肩甲骨、上腕骨、橈骨、尺骨、中手骨、手根骨、椎骨、寛骨、大腿骨、脛骨、中足骨、距骨、踵骨である。また、今回は同定をおこなわなかったが、おそらくヒツジ／ヤギと思われる椎骨や肋骨、指骨も多数出土している。部位別に見ると、遊離歯や下顎骨(図1・2)、中手骨や中足骨(図3・4)など頭部と手足の先端部が非常に多く出土している。これらの中には歯の萌出や摩擦が進んでいないもの、骨端部の癒合が完了していないものが多数見られ、若い個体が中心であると考えられる。

このほかには、ネズミ科二〇点、ウシ七点、イノシシ／ブタとヒトを一点ずつ同定した。また、ネズミ科の可能性のあるものが二点、ウシの可能性があるものが一点含まれている。ヒトに関しては、室内に墓が設置されていることから、埋葬された人物のものが混入したと考えられる。

鳥類は合計六 points 出土しているが、同定には至らなかった。上腕骨、大腿骨と尺骨と思われるものが出土しており、お

そらく数種類含まれている。いずれも小型の鳥類である。魚類は合計六 points 出土しているが、鳥類同様に同定には至らなかった。すべて椎骨である。昨年度は出土しておらず、今回初めて見つかった。

三. 出土動物遺存体の特徴

本年度の調査では、哺乳類、鳥類、魚類が出土した。そのほとんどは哺乳類であるが、ヒツジ／ヤギの出土量が多く、顕著な偏りが見られることが特徴である。図5・6は昨年度と本年度の動物遺存体組成および哺乳類組成を比較したものである。昨年度の分析結果では、爬虫類(リクガメ科)が比較的多く出土し、哺乳類ではネズミ科の占める割合が高かった。ただし、これらは主に南翼廊第七室の構造物(T5)から出土しており、聖室内の床面付近から出土したものはヒツジ／ヤギが主体である。本年度はほとんどが床面付近から出土したものであるため、量的な差異はあるものの、昨年度とほぼ同様の出土傾向を示していると考えられる。

ヒツジ／ヤギと同定したものは三二四 points である。昨年度は五〇 points であることを考えると、本年度の出土量が非常に多いことが分かる。最も多く出土したのは同定

数の約半数を占める遊離歯であるが、最小個体数の算定に有効な部位のうち、最も多かったのは下顎骨の二九点である。そのうち右側が二〇点、左側が五点、左右不明が四点であるため、少なくとも二〇個体は含まれていると推測される。次いで多く出土したのが中足骨の二二点、中手骨の二〇点である。また、どちらか判別できずに中手足骨としたものが二五点ある。

一方で、そのほかの部位はこれらの半数にも満たないものが多い。分析結果の項でも述べたように、下顎骨や中手骨、中足骨など頭部と手足の先端部が多く含まれており、そのほとんどは若い個体である。これだけ多くのヒツジ／ヤギが出土しているにもかかわらず、部位や成長段階に顕著な偏りが見られる要因には、人為的な行為が影響していることが考えられる。昨年度の報告において、聖堂が放棄された後に屠殺の場あるいは飲食の場として使用され、ヒツジやヤギを解体した際に不要な部位をその場に廃棄した可能性を指摘した。実際に、刃物によってつけられたと思われる傷跡が残されていた骨も見つかっている。今回の結果は、昨年度の指摘をより補強するものであり、骨の表面の観察はおこなっていないが、解体行為に伴う傷跡が残されている可能性は高いと思われる。

また、聖堂内という比較的狭い範囲において成長段階の

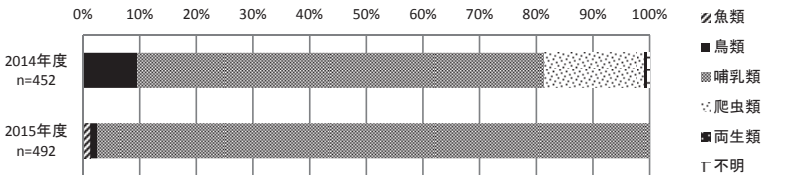


図5 動物遺存体の組成 (破片点数)

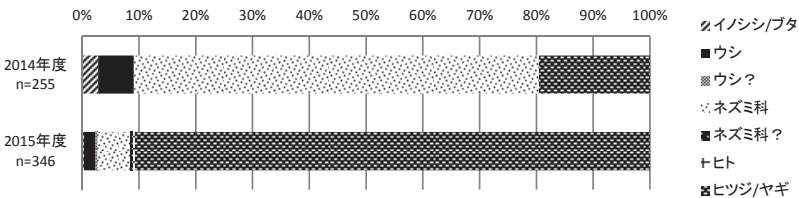


図6 哺乳類の組成 (破片点数)

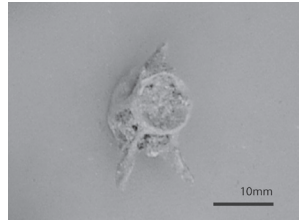


図7 魚類の椎骨

地に入り込んでいたことを示す事例の一つとして挙げることもできるかもしれない。しかしながら、現状としてそのほかの証拠に乏しいため、今後の検討課題としたい。

ところで、椎骨のみで数も少ないが、聖堂内から魚骨が出土したことは非常に興味深い事実である(図7)。トロ司教座聖堂は、標高約五〇〇メートルの小高い丘陵上に位置しており、最も近い河川からは直線距離にして約六キロメートル、海からは最短でも二五キロメートル以上離れている。加えて地形を考慮すると、移動するには単純な距離以上の労力がかかっていることが予想される。このような場所に魚が持ち込まれた理由については、食用とするためと考えるのが自然である。ただし、出土した魚骨の同定ができなかったため、海水魚なのか、それとも淡水魚なのかは不明である。このほかにも魚の状態や加工の有無、入

近い個体が多数出土していることの背景には、家畜の安定的な飼養体制の存在が推測される。若いヒツジ／ヤギを大量に消費しても飼養頭数を維持できるような状況にあった可能性があり、聖堂が機能を

失った後、遊牧民たちがこの

四．今後の課題

手方法やその経路など検討すべき課題が残されているが、少なくとも離れた場所から聖堂内に魚が持ち込まれていたことは確実である。交易によって海に近い地域からもたらされたものであるとするならば、ある程度保存の利く状態に加工された後に運ばれた可能性も考えられる。

以上、本年度出土した動物遺存体についての概要を示した。昨年度と比べて骨の残りが非常に良く、同定に有効な部位が多数含まれていた。しかしながら、冒頭で述べたとおり、本年度はあくまで仮同定の段階である。今後分析の機会が与えられるならば、同定に至らなかったものも含めて再検討するとともに、骨の表面の観察などをすべきであろう。また、今回は出土地点にかかわらず一括して報告したが、昨年度の調査地点と比べると、骨の出土量には明らかな違いが見られる。地点ごとの出土傾向や量的な差異を検討することができれば、骨の廃棄過程に関する有益な情報が得られる可能性がある。再調査の許可が得られた場合には、そのような点にも注目して分析を進める必要があるだろう。

トロス司教座聖堂から出土した動物遺存体 (二) (松崎)

謝辞

本報告をまとめるにあたり、発掘調査隊の先生方および学生の皆様から多くのご助力を賜りました。猛暑の中、現場において小さな骨の破片まで丹念に採集することは非常に大変な作業であり、本当に感謝の念に堪えません。記して厚く御礼申し上げます。

註

- (1) 松崎哲也「トロス司教座聖堂から出土した動物遺存体」『史苑』第七五巻第二号、二〇一五、三五六〜三六七頁。
- (2) 浦野聡「トロス司教座聖堂発掘報告(二〇一五)―考古学・建築上の知見から―」『史苑』第七六巻第二号、二〇一六、六一〜九六頁。
- (3) 種の同定にあたり、奈良文化財研究所の環境考古学研究室が所蔵する骨格標本を使用させていただいたほか、以下の書籍・論文を参考とした。松井章『動物考古学』京都大学学術出版会、二〇〇八。Boessneck J., *Osteological Differences between Sheep (Ovis aries Linné) and Goat (Capra hircus Linné)*. *Science in archaeology*, Thames and Hudson, 1969, pp.331-358. Wietake Prummel, Hans-Jörg Frisch, *A Guide for the Distinction of Species, Sex and Body Side in Sheep and Goat*. *Journal of Archaeological Science* 13, 1986, pp.567-577. P.Halstead, P.Collins, *Sorting the Sheepprom the Goats*.

Morphological Distinctions between the Mandibles and Mandibular Teeth of Adult Ovis and Capra. *Journal of Archaeological Science* 29, 2002, 545-553. Melinda A. Zeder, Suzanne E. Pilaar, Assessing the reliability of criteria used to identify mandibles and mandibular teeth in sheep, Ovis, and goats, *Capra. Journal of Archaeological Science* 37, 2010, pp.225-242. Melinda A. Zeder, Heather A. Lapham, Assessing the reliability of criteria used to identify postcranial bones in sheep, Ovis, and goats, *Capra. Journal of Archaeological Science* 37, 2010, pp.2887-2905.

(京都大学大学院博士後期課程)

**Basilica Excavation Report, Tlos 2015: A tentative report of
Faunal remains**

MATSUZAKI, Tetsuya

During the excavation of the Basilica at Tlos in 2015, we found many animal bones. Also in 2014, we found bones and identified some species; Mammals (sheep -*Ovis aries*, goat -*Capra hircus*, cattle -*Bos taurus*, mouse -Muridae, wild or domestic pig -*Sus scrofa*); Birds (Phasianidae, Passeriformes); Reptiles (tortoise, snake); Amphibia (Frogs):.

Animals that were identified in 2015 are as shown below.

Mammals: sheep, goat, cattle, wild or domestic pig and mouse

Birds: unidentified

Fishes: unidentified

The total number of bones that were excavated in 2015 is larger than that of the last year. Most of bones are identified as sheep or goats. Many of the mandibles, the metacarpals and the metatarsals are found, but other bones are less. It is likely that people slaughtered domestic animals for food and threw the bones away selectively after the Basilica was abandoned.

However, the analysis of animal bones has not been completed this year. So this report is tentative and we are planning the final report next year.